

日本労働年鑑 第57集 1987年版
The Labour Year Book of Japan 1987

第四部 労働組合と政治・社会運動

III 政党の動向

6 日本共産党

3 大会・中央委員会

(1) 中央委員会総会

概況

この一年半の間に開かれた中央委員会総会は、第一一回(第一六回大会以降の通算)と、第一回・第二回・第三回・第四回・第五回(第一七回大会以降の通算)の六回である。

一一中総

八五年九月五～七日、党本部で開催。総会は宮本議長の司会で開会され、宮本議長の冒頭発言、不破幹部会委員長の党務報告がおこなわれた。また、不破委員長が決議案「『第一七回党大会をめざす党員総決起、党の質的強化・党勢拡大月間』をよびかける」を提案し、金子書記局長が第一七回党大会決議案について、吉岡吉典政策委員会責任者が党綱領の一部改正案について、市川正一組織局長が党規約一部改正案について、それぞれ提案説明をおこなった。総会では延べ五九人が発言したのち、これらの発言・報告・議案・決議がそれぞれ全員一致で採択され、大会議案については、ただちに全党討議にかけ、第一七回党大会に提案することになった。また総会は、第一七回大会代議員選出にかんする規定事項を決定し、第一六回党大会期の統制委員会の報告をうけ、決議「国家機関によるスパイ工作、結社の自由侵犯について」を採択した。

一七回大会一中総

八五年一月二四～二五日、伊豆学習会館で開催。総会では、冒頭、宮本議長があいさつをおこない、そのなかで、非核の政府と五項目の提起について中央でもただちに具体化を検討するが、地方でも中央まちならずとりくむべきであると強調し、新しくつくられる中央委員会の地方代表機関の重要性と活動のあり方や問題別委員会の活動などについてのべた。総会は二四日の会議で中央委員会議長以下の新しい人事を決定(役員の項を参照)、村上弘を責任者とする統制委員会、中沢清作を責任者とする監査委員会を任命し、二五日の幹部会で決定された書記局人事について報告をうけた。この人事では、宇野三郎書記局次長に代わって浜武司常任幹部会委員が選任され、緋田吉郎・小島優とともに書記局次長となった。また、総会は、幹部会で任命された吉岡吉典を責任者とする中央機関紙編集委員についても報告をうけ、党中央機構の問題別委員会を、(1)国際問題、(2)政策問題、(3)宣伝・イデオロギー問題、(4)思想・組織建設問題、(5)機関紙問題、(6)統一戦線問題、(7)大衆運動、日常活動問題、(8)選挙・自治体問題、(9)青年学生問題、(10)平和問題の一〇委員会に再編成した。

二中総

八六年三月一一～一四日、党本部で開催。総会は宮本議長の司会で開会され、宮本議長の冒頭発言の後、金子書記局長が一中総後の党務報告、不破幹部会委員長が「国政選挙の得票目標と闘争方針の新しい発展について」の幹部会報告をおこなった。冒頭発言と幹部会報告の中では、全国を三つのランクに分け、そのそれぞれで有権者比で一～二割以上の得票をめざすという新しい目標を設定し、参院選を初めとした新しい選挙闘争方針が提起された。討論では延べ七四人が発言し、不破幹部会委員長の結語のあと、冒頭発言・党務報告・幹部会報告・結語が全員一致採択された。

なお総会は、つぎのとおり幹部会委員二名を補充した。
林百郎中央委員、衆議院議員団長

山手叡中央委員、機関紙誌局次長

三中総

四月一五～一六日、労音会館で開催。総会は、招集範囲を拡大し、中央役員でない県委員長、書記長、選対部長、および地方出張所事務主任も出席した。総会は、宮本議長の司会で開会され、宮本議長があいさつをかねた冒頭発言、不破幹部会委員長が二中総決定実践についての幹部会報告をおこなった。これらのなかでは、参院選をめざす活動での立ち遅れ、後退など憂慮すべき事態にあること、このまま推移するなら重大な後退を招く危険があることがきびしく警告され、全党の決起による奮闘が訴えられた。討議ではのべ四三人が発言したが、とくに宮本議長も発言を求めて、機関の指導上の問題、中間地方選挙と全党的課題との関係などについて解明した。総会は、宮本議長の冒頭発言(中間発言をふくむ)、不破委員長の幹部会報告と結語を全員一致採択し、金子書記局長が提案した「第三回中央委員会総会会議」(全文は『赤旗』八六年四月一八日付に掲載)を採択した。また、総会は統制委員として二人を補充した。

四中総

七月二九～三一日、党本部で開催。総会は宮本議長の司会で開会され、一七回大会以降死去した中央委員会顧問三人への黙とうの後、宮本議長があいさつをかねた冒頭発言、金子書記局長が二中総後の党務報告、不破委員長が幹部会報告をおこなった。冒頭発言と幹部会報告では、衆参同時選挙の総括をおこなうとともに、選挙後の課題について、大衆闘争の強化、一斉地方選挙とつぎの国政選挙の準備、前回一斉地方選挙時比三割増以上の機関紙拡大、大衆に信頼される党風の確立などが強調された。討論では四九人が発言し、宮本議長も中間発言をおこなった。総会は、金子書記局長が結語をのべ、報告等を採択したあと、不破幹部会委員長が提案した「第四回中央委員会総会決議」(全文は『赤旗』八六年八月一日付に掲載)を全員一致採択した。

五中総

一〇月三～四日、党本部で開催。総会は宮本議長の司会で開会され、宮本議長のあいさつをかねた冒頭発言ののち、金子書記局長が「いっせい地方選挙、中間地方選挙への方針」(案)を提案した。討論では四六人が発言し、金子書記局長が選挙方針について補足説明をおこなうとともに、五中総決定の読了問題について提起した。総会は選挙方針等を全員一致採択したのち、「『機関紙拡大月間』の成功を全党員の力で」、「党風の刷新、党生活の確立による全党員の自覚的結集」、「国鉄分割・民営化の強化をゆるさない国民的反撃を」の三つの決議(いずれも『赤旗』八六年一〇月六日付に掲載)をそれぞれ採択した。

日本労働年鑑 第57集 1987年版

発行 1987年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年8月1日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1987年版(第57集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
